

第 3 分科会 (社会科教育 中学校)

研究主題

すべての生徒が主体的にとりくむ社会科教育の探求

～学習におけるユニバーサルデザインの視点にもとづいた授業実践を通して～

1. 主題設定の理由

2016年4月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が施行され、全ての公立学校等において、障害のある幼児児童生徒へ、必要に応じて合理的配慮を提供することが義務化された。本校にも通常学級に在籍していながら、特別な支援を要する生徒がおり、通常の社会科学習をするだけでは、それらの生徒を含めた生徒一人ひとりが社会科学習に主体的にとりくむことは難しいと考える。そこで、ユニバーサルデザインの視点に基づき、授業実践をすることで、すべての生徒が、主体的に社会科学習にとりくめると考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

すべての生徒が主体的にとりくむ社会科教育を構成するにあたり、仮説として次の3点を示す。

- (1) 社会科の学習内容を焦点化し、絞り込み、具体的にすることで、生徒が社会的見方・考え方の獲得を目指すことができるであろう。
- (2) 社会科の授業を視覚化し、効果的に視覚情報を使い、理解を促せば、興味・関心が高まるであろう。
- (3) 社会科の授業で共有化する場面を取り入れ、社会的見方・考え方を全員に広げる機会を設ければ、すべての生徒の思考が深まるであろう。

3. 研究内容

生徒の実態に即したユニバーサルデザインの視点を授業に取り入れ、学習活動の展開を行う。

4. 結論

学習におけるユニバーサルデザインの視点にもとづいた授業実践を行うことは、「すべての生徒が主体的にとりくむ社会科教育」を行う上で、有効な手段である。

君津支部

富津市立大貫中学校

星野 大助

I 研究主題

すべての生徒が主体的にとりくむ社会科教育の探求

～学習におけるユニバーサルデザインの視点にもとづいた授業実践を通して～

1 設定理由

(1) 国の施策として

2011年8月の「障害者基本法」の一部改正及びその延長線上としての2013年6月の「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)の制定により、障害者の権利を遵守するための「合理的配慮」の提供が法的に義務づけられた。こうした流れを受けて、文部科学省も教育についての障害者の権利を認め、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容教育制度(インクルーシブ教育システム)等を確保することとし、その権利の実現にあたり、確保するものの一つとして「個人に必要とされる合理的配慮が提供される」等が必要であるとしている。

(2) 学校教育のあり方として

「合理的配慮」は障害者権利条約にもあるように「他の者との平等を基礎として全ての人権及び、基本的自由を享有」することを前提としていなければならない。その視点から学校教育の前提として、通常の学級にいるすべての生徒たちに対して、基礎的な環境整備が十分に保障されなければならないということである。そのためには、適切な学習環境の設定と、効果的な授業方法が実施されることが必要で、特別な教育ニーズがある生徒への支援は、その適切な学習環境、効果的な授業方法を基盤に、可能な限り通常の学級の中で行わなければならない。

(3) 学校現場の現状として

学校現場の現状を見ると、小学校では特に低学年において、まだ学習のための言語が不十分で、学習習慣も十分に定着できていないことなどから、適切な環境整備(基礎的環境整備)が浸透しやすいが、中学校になると、学習の基礎となる諸能力やスキルは十分に発達・獲得しているということを前提に日常の授業が行われるために、特別な教育ニーズのある生徒は、学習から取り残され、自分に合う学習方法も見つからず、学習を放棄してしまいやすい。こうした状態は「本人の努力不足」とみなされがちで、結果として、二次的問題が生じ、不登校等、非行に結びつくことも少なくない。

(4) 本校の現状として

本校は富津市の東部に位置する生徒数約180人、各学年2クラスの小規模校である。どの学年も非常に落ち着いており、学校生活に前向きな生徒が多く、社会科の学習に対し、興味を持つ生徒が多い。その反面、授業に対し消極的で、「授業がわからない」「勉強しても無駄だ」と理解することを諦めかけている生徒も各クラスともに数名いる。そこで、普

段の授業の中で困っていることがないか、実態を把握するため、以下のようなアンケートを実施した（生徒数87人…3学級で実施）（2016年11月7日実施）

授業中次のようなことがありますか。

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1 黒板を写すとき、何度も見ないと写せない。 | |
| ない・たまにある・・・67人 | ときどきある・よくある・・・20人 |
| 2 音読の時、読み間違ふ。 | |
| ない・たまにある・・・59人 | ときどきある・よくある・・・28人 |
| 3 音読の時に文字を目で追うことができない。 | |
| ない・たまにある・・・87人 | ときどきある・よくある・・・0人 |
| 4 単語テストや・漢字テストなどでなかなか点数が取れない。 | |
| ない・たまにある・・・52人 | ときどきある・よくある・・・34人 |
| 5 先生の話以外の目に入ったものが気になる。 | |
| ない・たまにある・・・74人 | ときどきある・よくある・・・13人 |
| 6 授業中、先生の口だけの説明ではわかりにくい。 | |
| ない・たまにある・・・74人 | ときどきある・よくある・・・15人 |
| 7 友達の考えを聞いて、話し合いながら学習するのが苦手である。 | |
| ない・たまにある・・・69人 | ときどきある・よくある・・・16人 |
| 8 先生の説明後、活動を始める時に、自分が何をしようかわからない。 | |
| ない・たまにある・・・71人 | ときどきある・よくある・・・15人 |
| 9 着席しても、手足をつい動かしてしまう。 | |
| ない・たまにある・・・66人 | ときどきある・よくある・・・21人 |
| 10 色々な音が気になって、先生や友達の話が聞き取りにくい。 | |
| ない・たまにある・・・78人 | ときどきある・よくある・・・9人 |
| 11 先生の説明や、友達の発表の途中で、口をはさんでしまう。 | |
| ない・たまにある・・・81人 | ときどきある・よくある・・・6人 |

アンケートの結果から、日常の授業において困り感を感じている生徒も少なくなく、そのような困り感のある授業の積み重ねで、生徒は主体性をなくし、学習に対して消極的になり、結果、学力が低下していくというマイナスの連鎖に陥ってしまっているのではないかと考えた。

（1）～（3）の実態をふまえ、すべての生徒が主体的に取り組む社会科教育を実現していくためには、ユニバーサルデザインの視点を授業に取り入れることが有効ではないかと考え、本研究主題を設定した。

2 ユニバーサルデザインの視点とは

（1）社会科授業のユニバーサルデザインの定義

学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての生徒が、楽しく「わかる・できる」ように工夫・配慮された通常学級における社会科授業デザインとした。

(2) 学習におけるユニバーサルデザインの視点とは？

- ①授業の規律 ②本時のねらいの焦点化 ③教材の視覚化 ④教材の構造化
- ⑤生徒の実態に合わせた発問や指示 ⑥学習の繰り返し
- ⑦授業への興味関心をひく導入や学習課題 ⑧全員に発言の機会
- ⑨発言を認め合う教室の雰囲気 ⑩次時への期待

以上のような視点を取り入れた授業をユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業とされているが、本研究ではこれらの項目から特に「焦点化」「視覚化」「共有化」に関する項目に絞り、研究することとした。

3 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業とは

本研究を進めるに当たり、社会科教育にユニバーサルデザインを取り入れるために以下の3点を手立てとし、「社会的な見方・考え方」(様々な社会的事象に転移する汎用性の高い概念)を獲得することで、生徒の主体性を高める方策を模索した。

(1) 焦点化

- ①社会的見方・考え方を明確にし、絞り込み、具体的にすること。



社会的見方・考え方は汎用性が高いがゆえに抽象度が高く、生徒にそのまま伝えても定着しない。そこで、「単元レベルの社会的見方・考え方」「本時レベルの社会的見方・考え方」を具体的に、明確にし、絞り込む。

- ②社会的見方・考え方を生徒の発言レベルに落とし込む。



授業に直結する本時レベルの社会的見方・考え方を生徒の発言にまで落とし込み、例示まで想定することで、ねらいからのズレを防ぐ。

- ③発問を焦点化する。



発問の具体性、問口の広さに考慮する。

△「どんな工夫をしていますか？」 「何か気づいたことはありませんか？」

→問口が広く、社会科の苦手な生徒、発達障害がある生徒はどこにどう注目してよいのかわかりづらい。

○「雨温図を見て、いつ降水量が増えていきますか？」「6～8月ですか？12月1月ですか？」

→問口が狭く、どの生徒も学習にのりやすくなる。

※ただし、何でも問口を狭くすればよいという訳ではない。問口の広さは生徒の実態や発問の意図によって決まる。

(2) 視覚化

① 効果的に視覚的情報を使い、理解を促す。



資料を加工する・・・空欄をつくる、アップにする、ルーズにするなど、見せ方を工夫し、より効果的な視覚情報に交換して生徒のモチベーションを上げていく。

② 板書を構造化する。



黒板のどこに何を書くか、大まかな位置を決めておき、どの子にもある程度本時の見通しがもてるようにする…板書の構造をある程度パターン化し、安心感を与える。

③ 1時間の授業の流れを提示する。



導入部分での本時の流れを聴覚情報だけでなく、視覚情報として与え、生徒に見通しを持たせる。また授業の中で、今何を学習しているのか、視覚情報として与える。

(3) 共有化

① 一人ひとりの生徒の社会的見方・考え方のよさを全員に広げる。



他者の意見を聞くことで、新たな視点を得る。

② 話しやすい空気をつくる。



生徒によって社会経験の差は大きく開いており、授業で話題にのぼる社会的事象が自分の経験の範疇にないと積極的に話すのは難しい。そこで、予想場面（～だと思います。～ではないか。）や、仮定場面（もし～なら）を増やし、発言しやすい雰囲気をつくる。また、単元後半に価値判断場面を設けることで、より主体的に学習させるよう工夫する。

II 研究の仮説

すべての生徒が主体的にとりくむ社会科教育を構成するにあたり、仮説として次の3点を示す。

- (1) 社会科の学習内容を焦点化し、絞り込み、具体的にすることで、生徒が社会的見方・考え方の獲得を目指すことができるであろう。
- (2) 社会科の授業を視覚化し、効果的に視覚情報を使い、理解を促せば、興味・関心が高まるであろう。
- (3) 社会科の授業で共有化する場面を取り入れ、社会的見方・考え方を全員に広げる機会を設ければ、すべての生徒の思考が深まるであろう。

Ⅲ 研究の概要

本研究は（１）ユニバーサルデザインの視点を取り入れた日常でのとりくみ・実践，と（２）ユニバーサルデザインの視点にもとづいた単元構成による授業実践，の２点の方法を用いて進めた。

（１）日常でのとりくみ・実践

板書の構造化により，授業の視覚化を促す

<板書のパターン化>

日付	本時のタイトル	調べたこと②
学習課題（青のチョークで囲む）		
予想		
調べたこと①		
		まとめ（赤のチョークで囲む）

（２）ユニバーサルデザインの視点を取り入れた単元構成による授業実践

① 単元名 「関東地方～さまざまな地域と結びつく人々の暮らし～」

② 獲得させたい社会的見方考え方（焦点化）

<単元レベルでの社会的見方・考え方>

大都市などの人口が集中した地域では，交通・通信網の広がりにより，国内外の他地域との結びつきが強まり，様々な産業が発達する。

<本時レベルでの社会的見方・考え方>

時間	本時レベルでの社会的見方・考え方	生徒の発言レベル
1 本時	地域の特色をとらえ，課題を解決するためには，自然環境，人口，産業，交通について調べることが必要である。	関東地方の都市が発達した要因を探るためには自然環境だけでなく産業や交通について調べることが必要だと思う。
2	平野が広く，人口が集中しやすい地域は大都市を中心として大都市圏を形成し，工業，商業等，様々な産業が発達する。	関東地方には関東平野が広がっていて，人口が集中しやすい。人口が多いので，様々な産業が発達している。
3	首都には国を動かす中枢機能が集中し，政治，経済，文化の中心地として都市が発達する。	東京には中枢機能が集中しているのでたくさんの人が集まり，郊外からの通勤通学者も多い。
4	大都市や産業の発達を支えるのは，交通網や情報網であり，他地域との強い結びつ	臨海部は京浜工業地帯や京葉工業地域，内陸部には北関東工業地域が形成

	きにより産業が成立している。	され、港や空港を利用し製品の輸送が行われている。 都市の周辺の山間部では輸送園芸農業が行われ、高原野菜などが高速道路を使用し、消費地へ運ばれてくる。
5	首都を中心とした地域は国内各地との結びつきに加え、世界との結びつきが強く、物資、人、情報が活発に行き来し、発展する。	関東地方には国際空港や貿易港が数多くあり、外国との交流が活発である。そのため、外国人の居住者も多い。

③ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導計画

時間	ユニバーサルデザインの視点	具体的なとりくみ
1 本時	・視覚化 ・共有化	・パワーポイントによる資料提示（空欄を作る） ・予想場面を増やす ・KJ法を用いた意見交換・話し合い
2	・焦点化	・写真資料のマスキング（1月の館山の写真） ・間口の狭い発問…雨温図の比較、関東地方の人口 「夏と冬の気温差が最も大きいのはどの都市ですか？」 「人口50万人以上の都市はいくつありますか？」
3	・共有化 ・共有化	・予想場面を増やす・ 「なぜ東京に人々が集まるのだろうか？」 ・仮定場面を増やす 「もしあなたが菊川さん（教科書に出てくる人物）だとしたらどうしますか？」
4	・焦点化 ・視覚化	・間口の狭い発問…都県別の工業生産額と内訳 「なぜ千葉や神奈川は化学製品をたくさん作れるのですか？」 ・資料に空欄を作る（主な野菜の生産量の県別割合）
5	・焦点化 ・共有化	・間口の狭い発問…日本の港湾別貿易額 「関東地方にある港や港湾はいくつありますか？」 ・単元の課題についての意見交換・話し合い。

3 本時の指導（1／5）

（1）目 標

- ・関東地方の学習に興味や関心をもつことができる。【興味・関心】
- ・話し合い活動を通して課題解決のための方策を考え、まとめることができる。

【思考・判断・表現】

(2) 展 開

学習 過程	時配	学習内容と活動	ユニバーサルデザインの視点にもとづいた 支援と留意点 (○支援と留意点 ◎評価)	資料等
見い だす	5	1 写真資料を読み取り, どの写真か考えることで関東地方のイメージを広げる。 ・都心部の写真 ・工業地帯の写真 ・臨海部の写真	○都市が発達している様子を写した写真を複数用意し, イメージしやすくする。(視覚化) ○生徒に自由に発言させ, 発言しやすい雰囲気を作っていく。(共有化)	写真資料 資料集
	5	2 資料から関東地方の人口の多さや, 都市の発達の様子について理解する。 ・関東地方や東京の人口 ・関東地方の企業数 ・政令指定都市の数	○都市の発展の様子を具体的な数字で示し, 関東地方が発展しているという根拠を持たせる。(視覚化) ○あまり時間をかけすぎずタイミングよく数字を提示していく。	数値を示したフラッシュカード
	10	3 単元を通した学習課題を把握し, 予想を立てる。	○予想を立てさせる際に, 個人で考える時間を確保し, ノートに書かせる。	ノート
調べ る		関東地方はなぜ都市が発達していったのだろうか。		
		・交通が発達しているから。 ・人口が多いから。 ・日本の中核機能が集中しているから。	○机間指導を行い, 予想を立てられない生徒には「どうすれば人が集まるのか」「都会の魅力は何か」など, 補助発問をして, 予想を立てやすいように支援する。 ○予想場面を長くする。(共有化)	
	10	4 課題を解決していくために何を調べればよいか考え, グループごとに話し合い, まとめる。 ・自然環境 ・工業 ・人口 ・交通 ・歴史 ・農業 ・商業 ・観光	○様々な意見が出やすいようにKJ法を取り入れる。(共有化) ○付箋紙を個人に配り, 考えたことを書くように指示する。 ○グループの形になり, グループごとに付箋紙をまとめ, 意見をグループ化させる。 ○司会者が中心となり, 意見を出させるように指示する。	付箋紙 付箋紙を貼る用紙
深め る	15	5 話し合ったことをグループごとに発表し, 今後の小課題を全体で決めていく。	○小ホワイトボードの使用 (共有化) ◎話し合い活動を通して課題解決のための方策を考え, まとめることができたか。	小ホワイトボード

まとめ あげる	5	6 本時を振り返り、ノートに感想を記入する。	都市の発展についての課題を解決していくために考えた課題についてこれから考えていこう。 ◎関東地方の学習に興味や関心をもつことができたか。	ノート
------------	---	------------------------	---	-----

V 仮説の検証

(1) 社会科の学習内容を焦点化し、絞り込み、具体的にすることで、生徒が社会的見方・考え方の獲得を目指すことができるであろう。

関東地方に住む本校の生徒たちにとって、関東地方の学習は身近で、イメージしやすく、導入の段階から比較的意欲的にとりこんでいた。しかし、「人口が多く、各産業が発達している」という認識はあるものの、その要因まで深くとらえている生徒は少なく、追求する姿勢は低かった。そのため、学習に対して主体的にとりくむ姿勢を持たせるために、関東地方の単元で身につけさせたい社会的見方・考え方を明確にしてねらいに沿った単元構成を考えることで、生徒が社会的見方・考え方を獲得する施政が見られた。

<単元のまとめ時の生徒の感想>

Q 関東地方の学習で学んだことは何ですか？

生徒 A…学習意欲が低く、板書をノートにほとんど書かない。

・関東地方は、工業や農業がさかん。交通が発達しているから人口が多い。外国との繋がりも深い。たくさん外国の人が住んでいて驚いた。

生徒 B…音読などではできるが、書き取りが苦手(そのため、聞き取り)

・関東地方の工業は、海の近くで発達しているので、輸出や輸入に便利。

・自分で調べたり、考えたりできたと思う。

生徒 B…学力は中の上位

・関東地方は発達している都市が多い理由について、自分で調べたり、話し合うことができた。

・発達の理由に外国や国内の繋がりがあるということがわかった。

関東地方の学習で身につけさせたい、社会的見方・考え方を明確にすることで、生徒を導く授業を構成しやすく、ねらいからずれない授業をすることができた。そのため、生徒も何を学んでいるかが明確になり、主体的に学習にとりくむ姿勢が見られた。生徒 A や B は他の生徒と比べると理解は十分ではないが、ここまでの感想を持つことができたことは一つの成果であると考えられる。

また、発問の具体性、問口の広さに考慮した結果、学級で支援を要する生徒が答えることが増えたり、意図した答えを導き出す機会が増えた。

(2) 社会科の授業を視覚化し、効果的に視覚情報を使い、理解を促せば、興味・関心が高まるであろう。

関東地方の学習では、グラフや写真、図など多くの資料が登場する。それらを加工することで興味・関心を高めることができた。

資料を加工して提示したことは生徒の関心を高めるのに有効であることがわかった。感想以外

＜授業後の自己評価＞…仮説(2)に関することを抜粋

- ・写真が隠されていたりして、大切なところに注目して見られた。(2時間目)
- ・デジタル教科書がわかりやすい。動画もあってよかった。(3時間目)
- ・デジタル教科書で農業や工業のグラフが登場してわかりやすかった。(4時間目)
- ・今までと違って資料や映像に興味をもてた。(4時間目)

にも、授業での反応や取り組む姿勢からも主体性の高まりを感じ、資料から読み取った事実に関する要因について考えたり、調べたりする姿勢が見られた。

また、日常的なとりくみとして、板書の構造化を行ったが、パターン化することで何をどこに記入すればよいのかがはっきりしているので、ノートづくりに困難さを感じる生徒は徐々に減少してきた。

(3) 社会科の授業で共有化する場面を取り入れ、社会的見方・考え方を全員に広げる機会を設ければ、すべての生徒の思考が深まるであろう。

本研究では、共有化の方策として、グループでの話し合いにKJ法を取り入れたり、小ホワイトボードを使用した。また、予想場面や仮定場面を意図的に取り入れ、社会経験の差が大きくても、発言しやすい空気づくりにつとめることができた。

＜授業後の自己評価＞…仮説(3)に関することを抜粋

- ・KJ法を初めてやったが、色々な意見が出てよかった。似たような意見をまとめたりして、みんなの意見をうまくまとめられたと思う。(1時間目)
- ・グループにより、色々な意見が出ていた。課題解決のために「まず現地に行こう！」というのがあって面白かった。なるほどと思った。(1時間目)
- ・今日の授業は予想や課題解決するための方法を考えた授業だった。色々な予想が出てきてよかった。次の授業からしっかり調べていきたい。(1時間目)

本時の授業では、共有化に力を入れ展開を構成したが、生徒にとっても予想場面を長くしたり、KJ法を使って意見を集約することは新鮮だったようで、活発な意見交換が行われた。そのため、授業後の自己評価にあるような、他者の意見を聞く機会を増やすことで、様々な見方や考え方を知る機会とし、それぞれの考えを深めることができた。また、予想場面を確実に取り入れることで、その後の授業展開についてきやすくなり、調べたことをノートにまとめる量が増えたり、自分から進んで調べる生徒が多くなった。

VI 研究のまとめ

(1) 授業研究や単元を終えて

授業研究は関東地方の単元の1時間目を実施した。力を入れた点は「共有化」である。予想場面を長くしたり意見交換をしやすい空気づくりを意識した授業を行い、生徒も活発に活動し、多くの発言があった。また、予想を立てることで、その後の学習に主体性が見られた。

また、授業の視覚化や授業の焦点化を実践することで、生徒にとって取り組みやすく、理解しようとする生徒を増やすことができたのではないかな。

(2) 結論

ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、授業に焦点化、視覚化、共有化を取り入れた授業実践はすべての生徒が主体的に取り組む社会科教育をする上で有効な手立てであった。

(3) 今後の課題

①授業研究

授業後の検討会では、「予想場面が長すぎる」「もう少し発問を精選した方が良い」との意見があり、課題が残った。また、単元を通しての課題を「関東地方はなぜ都市が発達していったのだろうか。」とするよりも「関東地方の人口が多いのはなぜか。」とする方が、生徒も主体的にとりくみやすく、ねらいとする社会的見方・考え方からもずれないのでは、との助言をいただいた。他クラスで実施したところ、その後の授業(2時間目以降)の生徒の取り組み方に差が見られ、やはり、授業者自身が単元をどうとらえ、そのために、どのような発問を考えていくが重要であると痛感した。

②単元について

生徒を主体的に取り組ませるための方法として、「単元における社会的見方・考え方を明確にする」という項目があったが、単元に対してどこまで正確に授業者自身が社会的見方・考え方を理解するかで、生徒への教え方が変わってくる。そのため、ますます教材研究を重ね、自分が社会科に精通していくことが必要だと実感した。研鑽していきたい。

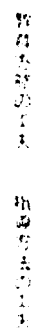
③仮説の検証方法について

本研究での仮説検証方法は主に生徒の感想(ノートや自己評価表、ワークシート)や授業での発言、観察であった。しかし、その方法で主体性の高まりを正確に検証するには不十分であると感じた。主体性の変化を数値化するなど、客観的にとらえる方法を模索していきたい。

資料編

—

;



2

.

パワーポイントで資料提示の仕方を工夫する

問題！
次の数字は何の数字でしょうか？

問題1
4277万人

正解は・・・

関東地方の人口(日本の**33.3%**)

問題2
123万6573社

正解は・・・

関東地方の企業数(日本の**30%**)

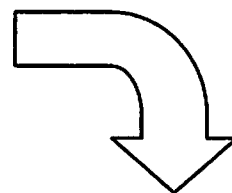
問題3
223兆4000億円

正解は・・・

関東地方の年間商品販売額
(日本の**46.5%**)

＜1月の館山市の写真＞

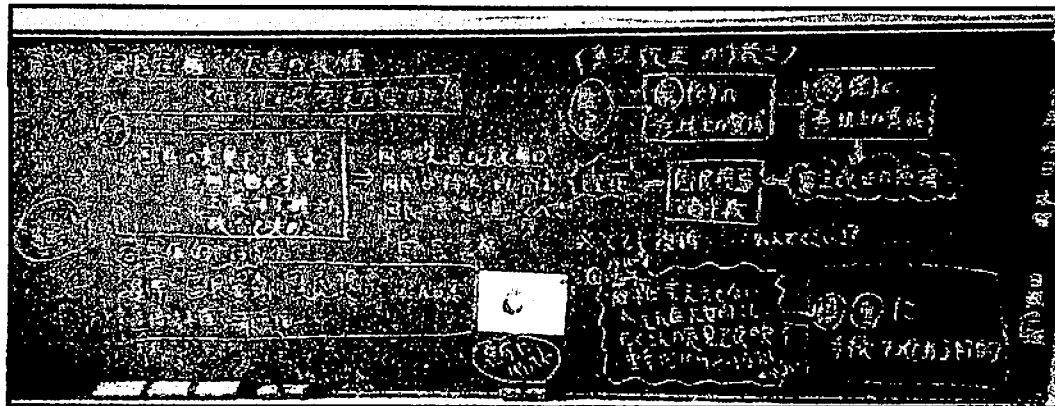
写真をズームインし、周辺を見えないようにして提示する



その後ズームアウトし、
周辺情報を印象付ける



構造的な板書の写真



授業の流れをあらかじめ示し、
授業への見通しを持たせる。



<共有化>

KJ法を用いて意見交換を行う。

様々な意見を出したいときに
用いる。



<参考文献・資料>

『中学校 ユニバーサルデザインと合理的配慮でつくる授業と支援』

(花熊 暁・米田和子編著 明治図書)

『社会科授業のユニバーサルデザイン』

(関西学院初等部 村田 辰明著 東洋館出版社)

※ その他、インターネット等で文献等を調べ、参考にしました。